

しまくとぅば（沖縄の言葉）に 込めた想い

本レポートでは、沖縄県内各地域で受け継がれてきた言葉である「しまくとぅば」を随所に用いています。

「しまくとぅば」は、地域の伝統的な生活や行事で使用される大切な言葉であるとともに、沖縄文化の基層をなすものであり、いわば沖縄県民のアイデンティティの拠り所です。

「しまくとぅば」には、命を慈しむ「命^{めち}どう宝（命こそ宝）」、互いに助け合う「ユイマール（相互扶助）」、思いやりを込めた「チムグクル（真心）」、行き逢えば分け隔てなく付き合う「イチャリバチョーデー（出会えば皆兄弟）」といったホスピタリティの精神が息づいています。

これらの「しまくとぅば」に象徴される、多様な価値観を受け入れる包摂性や相互扶助の精神は、世代を超えて大切に継承されてきました。こうした沖縄文化の根底に流れる人間中心の精神文化は、SDGsが目指す「誰一人取り残さない社会」の実現とも深く一致するものです。

沖縄の大切な宝である言葉を通じて、私たちが目指す未来の姿をより身近に感じていただければ幸いです。

※本文中では、しまくとぅばの後に（）内で共通語を併記しています。